

聖書日課 『からし種』 2020.4.5-4.12

<p>4月5日 (日)</p> <p>歴代誌上 16章</p>	<p>「恵み深い主に感謝せよ、慈しみはとこしえに」(34節)。ダビデはアサフとその兄弟たちに主に感謝をささげる務めを託した。賛美の歌は詩編として私たちに受け継がれている。主の恵みが日々の生活にあふれていることを心に留めて、主への賛美を口ずさみつつ、不安の多い時を共に過ごしていきましょう。主の慈しみがいつも私たちに注がれていることを覚えて</p>
<p>6日 (月)</p> <p>歴代誌上 17章</p>	<p>「主よ、今この僕とその家について賜った御言葉をとこしえに確かなものとし、御言葉のとおりになさってください」(23節)。ダビデは主に聞き、主の計画にすべてを委ねた。イスラエルに語られた主の言葉が永遠にイスラエルへの言葉となるようにと願い求めたダビデ。イスラエルの歴史の最初から今まで、主の祝福が限りなく注がれている。</p>
<p>7日 (火)</p> <p>歴代誌上 18章</p>	<p>「ダビデは王として全イスラエルを支配し、その民すべてのために裁きと恵みの業を行った」(14節)。ユダ族出身のダビデが、全部族を支配することは簡単ではなかつたろう。王としてダビデは自分の部族だけでなく、他部族も主の民として共に生きようとした。イスラエルの12部族がそれぞれに託された働きを担いながら生きた歴史が聖書に記されている。</p>
<p>8日 (水)</p> <p>歴代誌上 19章</p>	<p>「主が良いと思われることを行ってくださるように」(13節)。ヨアブもアンモン人もそれぞれが陣備え行う。ヨアブはその戦いの結果を主託していった。ダビデの家臣たちに与えられた痛みが主と共に共苦し、共に歩んでくださっていることを知る。その状況でもっとも弱い立場の人が尊ばれることが平和をつくり出す第一歩なのかもしれない。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2020.4.5-4.12

<p>9日 (木)</p> <p>歴代誌上 20章</p>	<p>「ダビデはその王の冠を王の頭から奪い取った…これはダビデの頭を飾ることになった」(2節)。ダビデの王冠は、アンモン人の王冠。アンモン人とイスラエルの戦いの歴史が刻み込まれた王冠をダビデは自分の頭に乘せた。ダビデ王の歩みには、戦いの歴史がある。その歴史に主なる神がいたことをダビデは覚えていたのだろうか。</p>
<p>10日 (金)</p> <p>歴代誌上 21章</p>	<p>「ダビデは…言った。『大変な苦しみだ。主の御手にかかって倒れよう。主の慈悲は大きい。』」(13節)。ダビデの行った人口調査は主の目には良しとされなかった。主が必要を満たしてくださることよりも、人の目に見える「数えられる」ものに心を留めたダビデ。主の怒りと慈悲の前に悔い改めるダビデから、主への信頼と主がくださる裁きの時を大切に受け取りたい</p>
<p>11日 (土)</p> <p>歴代誌上 22章</p>	<p>「見よ、あなたに子が生まれる。その子は安らぎの人である。わたしは周囲のすべての敵からその子を守って、安らぎを与える」(9節)。主なる神は、ソロモンが「生きている間は、イスラエルに平和(シャローム)と静けさを与える」とダビデに語る。ソロモンに託されたものは主が共にいることへの確信。そしてモーセに授けられた掟を守り、主に礼拝をささげること。</p>
<p>12日 (日)</p> <p>歴代誌上 23章</p>	<p>「彼らは神殿の奉仕に従事し、供え物のパン…についても責任を負った。更に彼らは、毎朝主に感謝し、賛美し、夕べにも同様にを行うこと…についても責任を負った」(28～31節)。レビ人たちに託されたのは朝夕の礼拝を整え、感謝と賛美をささげる喜びの奉仕。今朝それぞれの場所で、主イエスの復活をほめたたえる礼拝を整え、心からの賛美をささげよう。</p>